

*** HACCP自主認証での監査員からみたポイント ***

第4回〔防虫・防鼠について〕

HACCP 実践研究会 久保田 徹

ペストコントロールとは

今回は、『防虫・防鼠』について考えてみましょう。
『防虫・防鼠』は、ペストコントロールとも言います。

食品会社にとって、苦情や問合せの内容で特に多いのは、物理的危険に関するものでしょう。
物理的危険の中でも、『虫の混入』は、対応を適切に行わないと大きな問題となり、その企業にダメージを与えることとなります。

そのために、防虫・防鼠の管理としては、有害小動物の生態に詳しく、食品工場での生息状況の調査や駆除の方法を熟知している必要がありますので、専門の防虫業者に管理を委託することが、一般的に行われています。

防虫・防鼠について聞き取り調査をしたところ、専門の防虫業者に管理を委託しており、その調査報告書を提示されました。その報告書には、毎月の定点での捕虫記録が残っていましたが、そのほかには特別な記載がありませんでした。製造現場を確認したところ、準清潔区域の製造室にクモの巣が見かけられました。このような状況では、監査の評価はどのようになるのでしょうか。

まずは、防虫・防鼠の管理プログラムがあるか、否かということになります。



◇◇◇◇◇ 監査のポイント ◇◇◇◇◇

実際に防虫・防鼠の管理が行われていて、虫などの食品への混入のリスクが低減されているかを確認することです。そのためには、まず、防虫・防鼠の管理プログラムとして、次の事項を含んでいるかがポイントとなります。

- ・ 管理体制、管理責任者
- ・ 委託する場合は、委託業務の範囲、契約当事者の責任と権限
- ・ 駆除用薬剤のリストとその管理方法
- ・ トラップの配置図
- ・ 殺虫のための薬剤の使用法
- ・ 管理プログラムの実施の効果の評価方法、その頻度、是正処置(防虫・殺虫)
- ・ 防虫・防鼠管理の記録の保管

次に、防虫対策が、適切にそして十分に行われているかを確認することとなります。

◇◇◇◇◇ 監査のポイント ◇◇◇◇◇

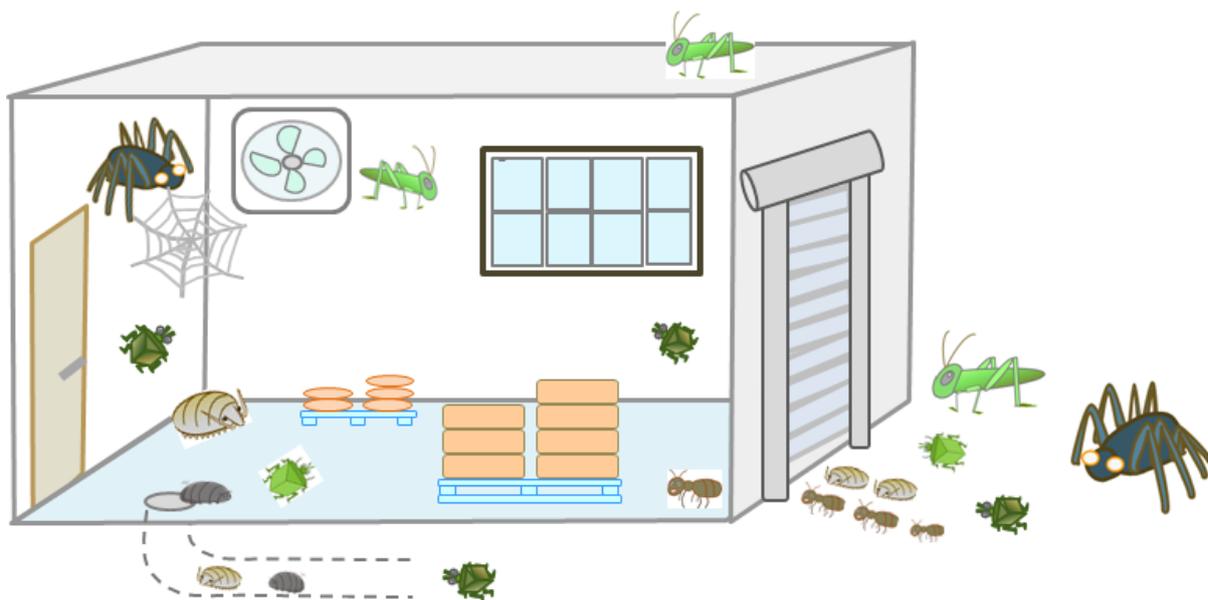
専門の防虫業者に、防虫・防鼠の業務委託をしている場合には、

- ・ 毎月のトラップの調査結果およびその結果に対するアクション
- ・ 特定の害虫の侵入経路の推定とその点検および対策
- ・ アクションとして、殺虫剤を使用した場合には、その効果の評価

これらの情報を防虫業者から提供されて、自社の工場の害虫の生息状況を正確に把握しているか、そして防虫対策が十分か否かを防虫業者とコミュニケーションをとっているかということが、ポイントになります。

食品工場には、いろいろな原材料、中間製品、そして最終製品が保管されています。これらの食品は、虫たちにとっては食料となりますし、また、その虫たちを捕獲するクモもいます。虫たちは、搬入口や搬出口から、ドアや窓から、給気口や排気口から、排水溝から、食品工場に侵入してきます。これらの虫たちを侵入しないように防御することが必要で、そのため、侵入する可能性のある隙間をできるだけなくすことが大切です。

また、狭い空間を潜り抜けて侵入した虫たちを捕獲するための捕虫器やトラップを適切に配置して、食品原料などの安全を確保すべきです。さらに、工場内の虫たちの生息状況を把握するため定期的に調査をして、必要に応じて殺虫剤の散布や若しくは捕獲する計画を立て、実施することも重要です。



工場内に生息しているそ族・昆虫は、『工場外部からの侵入』と『工場内での発生・繁殖』が考えられます。

そして、現場での確認です。

◇◇◇◇◇ 監査のポイント ◇◇◇◇◇

現場での確認としては；

- ・ トラップの設置場所およびトラップの設置時期と捕虫害虫の確認
- ・ 捕虫灯の設置場所
- ・ クモの巣の有無、および害虫の有無のチェック
(クモの巣が存在しているところには、虫が集まりやすい)
- ・ 原料搬入口および製品搬出口の開閉状況、網戸の備付け状況、排水溝など

これらの場所を確認して、害虫の生息状況や防虫対策の有効性を判断します。

防虫・防鼠の根拠として、コーデックスの文書にはどのように書いてあるか見てみましょう。

- …… 穴や排水溝やペストがアクセスしやすい場所は、覆い隠しておくこと。
ロールアップのドアは、床にしっかり閉ざされていること、…… 【5.2.2】
- …… 検出器とわなは、計画し位置決めされること。…… モニタリングと発見の作業が外部に委託されている場合は、モニタリングの報告書をレビューし、必要であれば委託業者に是正措置を取るようにすること …… 【5.2.4】
- …… ペスト侵入の原因が特定され、再び侵入しないように是正措置がとられること。侵入、モニタリングおよび根絶の記録は、保持されること。 【5.2.5】

さらにコーデックスの文書には、防虫・防鼠について以下のようにも書かれています。

[一次生産]では、食物の取扱い中、保管や輸送中に有害小動物から食物を守ること

[施設の立地]では、有害小動物が群生するような地域を避けること

[食品保管施設]では、有害小動物の侵入やすみかを避けるように設計すること

…… などなど、いろいろと書かれています。

虫たちが工場内へ侵入する可能性のある個所を最小限にするとともに、侵入もしくは内部発生の状況をトラップで捕獲した虫の種類と個数を確認し、侵入場所/発生場所を特定して、必要に応じて駆除することがポイントとなります。

◎ ◎ ◎ ◎ ◎ 余 談 ◎ ◎ ◎ ◎ ◎

以前に、中国の廈門の合併会社(ウーロン茶エキス・桂花茶エキスの製造)の製品について、得意先から微生物の問題を指摘されました。得意先からの要請に基づいて、プロジェクトチームを編成し、その製造工場の改善活動がスタートしました。その工場は、中国版のHACCPの認証を取得していましたが、文書や記録類が十分とはいえない状況でした。

まず実施したのが、問題を起こした『微生物制御に関連する製造条件の変更と工程管理の見直し』でした。次に、HACCP関連の書類と記録類の見直しと修正・補足でした。

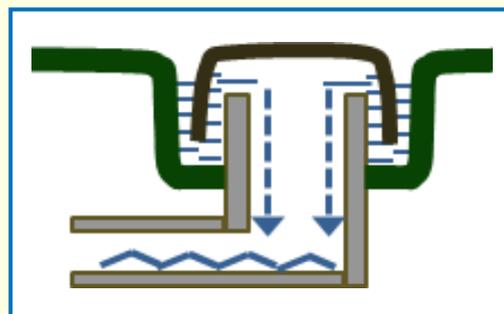
約3ヶ月ごとにその工場を訪問して、改善の進捗状況を確認し、不足している文書や記録類を一緒に改善していきました。訪問する毎に、『食品工場の衛生管理』についての教育研修を全従業員に対して、実施しました。

最初の頃は、指導やアドバイスや教育研修に対して、従業員は前向きではありませんでした。約1年が経過して(3~4回の訪問後)、少しずつ従業員の反応が、前向きに変わってきました。その頃にはHACCP関連の書類の見直しや修正、補足はほぼ完了して、製造環境や設備の見直しを検討しました。その見直しの一つに『**清浄区域である製品の充填室の排水口の問題**』がありました。清浄区域であるにもかかわらず、**排水口にトラップが付いてなく、害虫の侵入とにおいの問題を含んでいました。**

その排水口は、床から15cm程度しか落差がなく、通常の『排水トラップ』を取付けるにはスペースや長さが足りませんでした。

そこで、右図のような『**わん型の排水トラップ**』を付けるように指導しました。

トラップ内の点検や掃除ができる『**わん型トラップ**』の利点について説明し、**簡単な見取り図を描いて渡しました。**



その次に訪問した時に、工務部長が私に『排水口にトラップを付けました』、と報告をしてきました。早速、現場の排水口のトラップ(水封)を確認しました。見てみると、『**わん型の排水トラップ**』が出来上がっていました。私は、「よくできました」と言いました。そして、この排水トラップの工事をきっかけに、工場のいろいろな改善の相談を受けるようになりました。それと同時に、この合併会社と日本の本社部門のコミュニケーションが円滑にとれるようになりました。

この時点から、自分たちで自主管理ができる体制が、**だんだん出来上がってきた**と感じました。そして、それから約半年後に、このプロジェクトを解散することにしました。

最初に訪問した時には、とても友好的な関係ではありませんでした**が、改善活動を進めていく中で徐々にお互いの信頼関係ができてきたように感じました。**